



UNITED NATIONS  
UNIVERSITY

2007年5月14日  
MR/J19/07

メディア用原稿  
非公式記録

国際連合大学 広報部  
〒150-8925  
東京渋谷区神宮前5-53-70

Tel.: 03-3499-2811  
Fax: 03-3499-2828  
E-mail: media@unu.edu  
Website: http://www.unu.edu/

## 「国際生物多様性の日」を記念 国連大学高等研究所(UNU-IAS)、 環境省と地球環境パートナーシッププラザ(GEIC)共催セミナー

イベント： 国際生物多様性の日シンポジウム  
テーマ： 「生物多様性と気候変動」  
日時： 2007年5月22日(火) 午前10時～午後5時30分  
場所： UNハウス(渋谷区)、エリザベス・ローズ国際会議場  
主催： 国連大学高等研究所(UNU-IAS)、環境省(MOE)、  
地球環境パートナーシッププラザ(GEIC)

### 背景

- 国連は毎年5月22日を「国際生物多様性の日」と定め、生物多様性の重要性と持続可能な開発への貢献を訴えている。今年のテーマは「生物多様性と気候変動」。
- 気候変動は世界中の人々の生活に影響を及ぼし、動植物は、生息地の移動、ライフ・サイクルの変化や、新たな環境に順応していくためへの進化を余儀なくさせられている。
- この1世紀半の間、地球の温度は平均して0.6℃上昇した。現在の気候変動の予測によると、今世紀末には更に1.4℃以上上昇するといわれている。

### 内容

- 「2007年国際生物多様性の日」を記念して、国連大学高等研究所(UNU-IAS)、環境省(MOE)、地球環境パートナーシッププラザ(GEIC)は共催でセミナーを開催する。同セミナーには、生物多様性条約や国連気候変動枠組条約の代表、日本の各国連機関の代表、環境省などの政策立案者及び、NGO、マスコミ、民間企業が参加する。
- 参加者には、気候変動に対応していく中で生物多様性を守っていくために私たちに何ができるのか、シンポジウムを通じて考えてもらう。議論の焦点は、気候変動を抑制しながら生物多様性の保全をしていくための課題に対する日本の役割と責任や、日本と世界が適応できる選択肢を提供することである。
- このセミナーは、2010年に日本がホストする意向を示している生物多様性条約(CBD)第10回締約国会議(COP10)での課題検討にも貢献する。更に、生物多様性の保全や気候変動の抑制に対する日本の将来の取り組みを示す。セミナーから得られた成果は、生物多様性の損失や気候変動が人類の生活へ及ぼす影響を軽減するための戦略などに反映される。
- セミナーの詳細については、以下、ご参照ください。  
[http://www.ias.unu.edu/sub\\_page.aspx?catID=8&ddlID=308](http://www.ias.unu.edu/sub_page.aspx?catID=8&ddlID=308)
- 日英の同時通訳あり。

取材をご希望される方は、UNU-IAS、担当：ウェンディ・S・エリョットまでお知らせください。  
(Tel: 045-221-2331、Fax: 045-221-2302、メール: [Elliot@ias.unu.edu](mailto:Elliot@ias.unu.edu))

MEDIA ADVISORY